

展覧会概要
「文豪・泉鏡花×球体関節人形」展
～迷宮、神隠し、魔界の女～

主催 一般財団法人鹿野出版美術財団弥生美術館
会場 弥生美術館
会期 2018年7月1日(日)～9月24日(月・祝)
展示総数 人形約20点。鏡花本約40点。鏡花の手紙、
明治大正期の口絵類約20点。他に写真など。
8月21日(火)より
一部の展示を替えて後期展開始

連絡先 TEL03-3812-0012
〒113-0032 東京都文京区弥生2-4-3
休館 月曜日 ただし、
7月16日、8月13日、9月17日・24日開館
7月17日、9月18日(火)休館
料金 一般900円 大高生800円 中小生400円
(隣接する竹久夢二美術館と二館併せての料金。
高島華宵の常設ルーム見学料金も含む)
交通 東京メトロ千代田線根津駅 or 南北線東大前駅
共に徒歩7分
JR上野駅公園口・しのばず口より徒歩20分
(東京大学 弥生門斜め前)
鏡花文学監修 野口哲也(都留文科大学准教授)
協力 ドールスペース・ピグマリオン、朝日智雄、
泉鏡花記念館
担当学芸員 中村圭子

◆イベント(有料) ※詳細はホームページでご案内しています。
○トークイベント(吉田良、橋明) 7月22日(日)
17時～18時40分
○トークイベント(吉田良、三浦悦子) 8月26日(日)
17時～18時40分
○講演「泉鏡花の生涯と文学」野口哲也(都留文科大学教授)
9月8日(土) 17時～19時
○講演「人形の歴史」吉田良 9月22日(土) 17時半～18時半

◆イベント(入館料のみ)
担当学芸員によるギャラリートーク 8月12日(日)
14時～15時

広報のお願い
文豪・泉鏡花 ×
球体関節人形
～迷宮、神隠し、魔界の女～



図1 「高野聖」 泉鏡花／作 吉田良／人形、写真 2018年 高さ140cm

神、魔、人…鏡花文学に登場する女人たちは、正体ははっきりしないことも多く、謎の存在です。彼女たちは人形と通じ合うものがあります。人形もまた本来は無機質なもののながら、命あるものの気配を漂わせる謎めいた存在です。

特に、「球体関節人形」は、現代の「生き人形」と言うべきリアルな人形で、「本当に生きているのかもしれない」「心があるのかもしれない」と錯覚させられるほどの存在感があります。

数多の球体関節人形作家の中でも、その草分け的な存在である吉田良の作品は、存在感の迫力で抜きん出ており、また、想像力をかきたてる「物語性」を濃厚に秘め、鏡花の文学世界を表現するのに、ふさわしい人形と言えましょう。吉田良及び、その指導を受けた現代人形作家が、鏡花文学のヒロインを制作しました。

また、鏡花が執筆した明治末から大正期に、作品を飾った挿絵や装幀についても紹介します。鏡花の装幀本はその美しさから、古書界では特に「鏡花本」と呼ばれて珍重されています。

「泉鏡花」という100年以上も前に確立された美学を、現代の感性によって表現する試みです。

吉田良 略歴

1973年より人形制作を始め、1983年自由が丘にスペース・ピグマリオンを設立し、人形教室を主宰、現在に至る。東京都現代美術館「球体関節人形展～DOLLS OF INNOCENCE～」への出品後、映画や書籍に作品が起用され、作品写真集や技法書を出版。写真家でもあり、人形写真集を多く手掛けている。

「高野聖」あらすじ

若い僧が飛騨の山奥で道に迷った。辿り着いた一軒家には、障害のある夫の世話をしながらひっそりと暮らす美しい女がいた。女に誘われるまま汗を流しに谷川へ降りた僧は、清らかな彼女の官能に惹かれる。その夜、僧は、馬、羊、猿や魑魅魍魎に取り囲まれながら、女への愛欲に悩み、懸命に経を唱えて一夜を過ごした。翌朝、山を下りかけたものの、女への未練から戻ろうとした僧に、家に入りにいる男が真実を語る。女は男を誘い、飽きるとそれらを動物や虫に変えてしまう魔性の女であった。

本展の資金を、クラウドファンディング・マクアケにて募っております。参加作家の人形動画も見られますので、是非御覧ください。



2018年7月1日(日)
～9月24日(月・祝) 弥生美術館



図2「草迷宮」泉鏡花／作 亡き母の手毬唄を求める旅 水澄美恵子／人形（女性25cm）吉田良／写真 水澄は「日本橋」「天守物語」も出品。



図5「天守物語」泉鏡花／作 気高く美しい魔界の姫君 吉田良／人形、写真 140cm 富姫が手にしているのは鏡花の首（ストーリー上は殿様の首）吉田は「白龍と鏡花の頭」「高野聖」「注文帳」も出品



図6 泉鏡花 昭和元年頃 泉鏡花記念館提供



図7「琵琶伝」泉鏡花／作 恋人の名を呼ぶ鸚鵡 愛実／人形140cm 吉田良／写真 愛実は「朱日記」も出品



図3「絵本の春」泉鏡花／作 逢魔が時に現れる幻の貸本屋 陽月／人形115cm 吉田良／写真 陽月は「星の歌舞伎」も出品

図4「化鳥」泉鏡花／作 翼ある美しい女とは… 三浦悦子／人形55cm 吉田良／写真 三浦は「外科室」も出品



見どころ

- 1・泉鏡花が作家としてデビューしてから今年で126年です。100年前の文学を現代の作家がどのように表現するのか、興味深いところです。
- 2・吉田良の新作4点をはじめとして、他の作家についても、すべて本展のために新たに制作された作品で構成します。
- 3・夏の風物のひとつである「幽霊」「妖怪」が、鏡花文学には多く登場します。妖しく、美しく、怖い鏡花の展示は、夏の鑑賞スポットとして最適です。

浴衣 or 着物 100円割引します
(他の割引との併用、不可)

内覧会 6月30日

展覧会開始の前日、6月30日(土)4時から内覧会を開催します。人形作家も全員出席の予定ですから、是非、取材をお願い申し上げます。事前連絡いただけるとありがたいです。



図8「茸の舞姫」泉鏡花／作 蜘蛛の巣は綺麗な衣服 ホシノリコ／人形約40cm 吉田良／写真 ホシノは「革靴の怪」も出品

図9「夜叉ヶ池」泉鏡花／作 龍神と交わした鐘の約束 橘明／人形110cm 吉田良／写真

弥生美術館 中村 行

「文豪・泉鏡花×球体関節人形～迷宮、神隠し、魔界の女～」

写真貸出申込書

写真送付日 月 日 必着

掲載紙／番組名	
発売／放送予定日	
所属・ご担当者名	
ご住所 〒	
TEL	FAX
メールアドレス	

ご希望のものにチェックしてください。

図 版(作品タイトル、掲載誌、制作年)	ご希望するデータにチェックしてください
図1 「高野聖 (こうやひじり)」 2018年 人形、写真/吉田良	
図2 「草迷宮 (くさめいきゅう)」 2018年 人形/水澄美恵子、写真/吉田良	
図3 「絵本の春 (えほんのはる)」 2018年 人形/陽月、写真/吉田良	
図4 「化鳥 (けちょう)」 2018年 三浦悦子/人形、吉田良/写真	
図5 「天守物語 (てんしゅものがたり)」 2018年 人形・写真/吉田良	
図6 泉鏡花 昭和元年頃 泉鏡花記念館提供	
図7 「琵琶伝 (びわでん)」 2018年 人形/愛実、写真/吉田良	
図8 「茸の舞姫 (きのこのまいひめ)」 2018年 ホシノリコ/人形、写真/吉田良	
図9 「夜叉ヶ池 (やしやがいけ)」 2018年 人形/橘明、写真/吉田良	
読者プレゼント招待券 希望する方は枚数をお書きください	

通信欄

ポジ・紙焼の貸出について

同封のプレスリリースでご紹介している図版9点について、データを用意しております。

ご希望の場合は、この申し込み用紙に必要事項をご記入の上、**FAX 03-3812-0699**までお申し込みください。
美術館写真（外観）等を必要とされる場合は通信欄にお書きください。

読者プレゼント用招待券のご提供について

読者プレゼント用にご招待券を5組10名様分までご用意いたします。この用紙にてお申し込みください。

掲載紙ご送付のお願い

本展に関する記事をご掲載いただいた際には、お手数ですが掲載誌（紙）をお送りくださいますようお願い申し上げます。

〒113-0032 東京都文京区弥生2-4-3

鹿野出版美術財団 弥生美術館
中村圭子宛 Tel.03-3812-0012